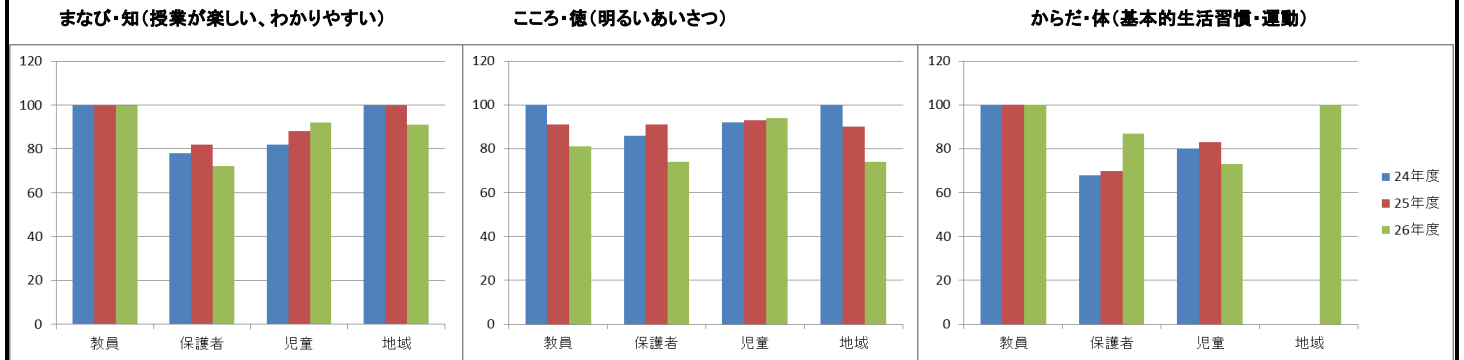


1 学校教育目標	心豊かに生きぬく子どもを育てる
H27 重点目標①	知:学力向上・確かな学力の定着 → まなび・知チーム(学びが学校で高まり、家庭で深まり、地域で広がる取組の推進)
重点目標②	徳:豊かな心の育成 → ころこ・徳チーム(人や物との関わりを通して心を育てる道徳教育の推進)
重点目標③	体:健やかな体の育成 → からだ・体チーム(元気な体を作る食育・体育の推進、生活習慣の定着)

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)



まず、まなび・知に関しては児童のアンケート結果の肯定率が年次的に伸びてきている点に着目したい。確実に成果は上がっていると捉えたい。保護者に関しては80%を切る肯定率であり4者の中では一番低い値となっている。ころこ・徳に関する「明るいあいさつ」については、教職員、保護者、地域から課題が指摘されている。ただし、児童アンケートは年次的に伸びてきている。からだ・体に関しては保護者アンケートの伸びが特徴的である。地域からも高い肯定率が出ている。反面児童アンケートは下がってきた。(からだ・体に関しては24年度・25年度地域の数値データなし)アンケート結果分析から、大きな方向性は変わらず、これまでの学校経営・教育活動を引き続き踏襲して行く方向でいくものとする。「知・徳・体」のバランスが取れた児童の育成をめざした学校経営を行う。そのためにも小中連携型のコミュニティ・スクールをより一層、推進していく。小中の全教職員、PTA、地域の代表者が3つのチームに分かれ、それぞれが役割を分担しながら伊佐の子どもたちの「9年間の学びと育ち」を見通した具体的で継続性のある取組を実践していくことを基本的な方向性としていきたい。

本年度よりまなび・知 ころこ・徳 からだ・体の3つのチームで具体的な教育活動(具体的方策)を提案して頂き、その活動内容や成果について直接、学校関係者アンケートをとるという形で評価を下していく。実践と評価が一体化され、コミュニティ・スクールとしてのPDCAサイクルを展開することにつながるものと考えている。以下に示した本年度の重点課題はコミュニティ・スクールの拡大運営会議で各チームより提案されたものである。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- 授業づくり
 - ① 伝え合う力の育成 自分の考えを持ち、表現する活動を取り入れる(学習形態の工夫)
 - ・授業改善への取組(伊佐スタイルの確立) 予習→学習(教えて 考えさせて 定着させる)→復習を意識した授業作り 「めあての確認」と「振り返り」をさせる。
 - 家庭学習
 - ・やまぐちっ子学習プリントの積極的な活用→チャレンジタイム、復習、自主学習などで取り組ませる。
 - ・授業における家庭学習(予習・復習)の取り入れ → 分からないことを見つけさせる。間違いを大切に。 家庭と連携し提出物の徹底を図る。
 - 読書活動の充実
 - ・読書週間の設定、図書委員会による読書の啓発
 - ・読書リレー、おすすめの本紹介、全教職員による読み聞かせ、学習支援ボランティアによる読み聞かせ
 - 伊佐学のすすめ
 - ・生活、総合的な学習の時間、社会科で地域人材や学習材として活用を図る。(美東ごぼう、根越とうふ、友善塾、グランドゴルフ、朝市ふれあい給食、たこ揚げ体験)
 - ・低学年における「町たんけん」 高学年における「地元企業の紹介」
- ② ○あいさつ運動
 - ・児童会を中心に「子どもあいさつ運動」の実践 あいさつ運動啓発週間を設け、場所と形態を変えて「あいさつ運動」を展開する。
 - これと運動した保護者や教職員による交通立哨やあいさつ運動実施
 - 体験活動の充実
 - ・異年齢集団活動の実践 → 全校縦割り班による清掃活動、友達タイム(全校遊び)、花壇の運営
 - 幼保小中連携の交流学習(保育園、幼稚園との交流学習・6年生の中学校体験)
 - 生徒指導の充実
 - ・教育相談週間を学期に1回設定する。毎週の生活に関するアンケートを実施し、結果を全教職員が共有し、役割分担する。スクールカウンセラーとの連携、教育相談会の設定。
 - 道徳の時間の充実
 - ・道徳の時間の確保と内容の充実 効果的な指導資料の作成と蓄積 道徳の時間への地域人材の活用を探る。
- ③ ○体づくり
 - ・チャレンジタイムの有効活用 毎週2回の3分間走(走った距離と給食の献立を関連づけて意欲化を図る。「日本一周鉄道の旅」 金曜日の「目覚ましスポーツ」、体育委員会、教職員による遊びの紹介、「遊々タイム・全校遊びの時間」、「学級で遊ぶ日の奨励」 「からだチームだより」の発行 親子運動の奨励
 - 食育
 - ・給食指導の拡充 毎月19日(食育の日)を基準に食に関する指導を実施。「ふれあい給食」異年齢交流による食育。給食時間の栄養教諭による栄養指導。
 - ・学校支援ボランティア(食生活改善推進委員・伊佐ふれあい朝市)と連携した活動の推進
 - 低学年(グリーンピースの皮むき体験、ふれあい給食会の開催) 中学年(根越豆腐づくり見学、赤郷ゴボウの収穫体験) 高学年(家庭科調理実習の支援ボランティア)
 - 生活習慣
 - ・生活習慣の見直し 学期1回の生活点検の実施 生活点検前の保健指導の実施 「グーグーチャレンジカード」を活用した生活改善、保育園への出前授業、情報モラル教育の推進(講演会)

4 学校による自己評価						
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準(数値目標)	目標の達成状況	達成度	重点目標の達成状況の自己診断・自己分析
学習指導	【知】 学力向上・確かな学力の定着 学びが学校で高まり、家庭で深まり地域で広がる取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業づくり(伝えようとする力の育成) ○ 家庭学習の習慣化 ○ 読書活動の充実(読書週間の設定等) ○ 伊佐学のすすめ(生活科、総合的な学習等伊佐町探検、根越豆腐、伊佐の売薬、友善塾、伊佐セメント工場、美東ごぼう) 	肯定率 85%	86% 93% 86% 86%	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「教えて・考えさせて」の学習過程を意識した授業改善が進んでいる。児童の意欲を高める工夫をしていきたい。 ・家庭学習、予習は定着してきている。家庭学習の発達段階に応じたレベルに到達していない児童への取り組みが課題である。 ・読み聞かせ活動を継続して行った結果、児童の読書への関心が高まり、読書意欲が向上してきた。 ・地域では、さまざまな項目で肯定率が高く、温かい見守りを感じる。指導者との打ち合わせの時間の確保が課題である。
道徳指導	【徳】 豊かな心の育成 人や物との関わりを通して心を育てる道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつ運動(集会委員会による実践活動) ○ 体験活動の充実(異年齢集団活動の実践) ○ 生徒指導の充実(教育相談の工夫) ○ 道徳の時間の充実(効果的な資料の蓄積) 	肯定率 85%	90% 90% 78% 86%	3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のめあてをあいさつにし、11月にあいさつ運動強調月間を実施したことで、児童・保護者共に意識が高まってきた。 ・校外活動、一人一鉢運動、ふれあい給食友遊タイムなど、多くの体験活動を行い、異学年との交流が深まった。 ・児童の実態把握に努め、一人一人の理解も深まっている。 ・道徳の年間計画をもとに、心の根を育てようと、多くの場面で言葉がけをしてきたので、児童自身の振り返りができている。
健康指導	【体】 健やかな体の育成 元気な体を作る食育・体育の推進、生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の日常化(チャレンジ走、「日本一周鉄道の旅 目覚ましスポーツ、遊々タイム、遊びの紹介」) ○食育(給食指導の拡充、食育の日、ふれあい給食 栄養指導、学校簿ランティアとの連携) ○生活習慣の見直し (グーグーチャレンジカード、保健指導、保育園との連携、情報モラル教育・講演、情報発信に工夫) 	肯定率 85%	88% 96% 86%	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりと食育をリンクした「日本一周新幹線の旅」を実施したことで、子ども達の意欲を高まった。 ・食の関心を高めることができた。学校関係者評価で最も高い評価を受けた。 ・小・中学校で、実施時期の合わせ計画的継続的に行うことで日常生活のふりかえりと改善につながっている。
/						

5 学校評価総括(取組の成果と課題)	
○ 学習指導に関して	<p>成果と課題: 授業づくりにおける児童・教職員・地域の肯定率はかなり高い数値を示しているが、保護者の肯定率は15%以上を低い数値である。</p> <p>家庭学習の発達段階に応じたレベルに達した児童が増えた。</p> <p>→ 授業改善の取組状況について、保護者への情報発信の方法を工夫する必要がある。</p> <p>理解深化課題の工夫など、児童の意欲を高める授業改善を進めたい。</p> <p>家庭学習や読書の習慣化を図るため、個人に応じた支援の方法を工夫する必要がある。</p>
○ 道徳指導に関して	<p>成果と課題: あいさつ運動の成果もあり、ほとんどの児童が大きな声で明るいあいさつをすることができている。</p> <p>保護者・地域の肯定率はかなり上がっている。生徒指導に関しては、保護者の肯定率が低い。</p> <p>→ 学校で行っている生徒指導の取組が保護者に伝えることが必要である。学校・学年だよりやホームページの充実など情報公開に努めていく。</p> <p>家庭での児童と保護者のコミュニケーションの大切さについてさらに啓発していく。</p>
○ 健康指導について	<p>成果と課題: 全般において、児童・保護者・地域・教職員の意識の差があまりない。</p> <p>生活習慣に関しては、3項目とも昨年度より児童の肯定率が向上し、意識が高まっている。</p> <p>→ 学校から発信する情報が児童・保護者・地域に十分伝わっていると考えられる。小中学校が連携した取組を計画的に継続して行っていきたい。</p>

6 学校関係者評価	評価
<p>学校運営協議会からの意見・要望等(・学校における取組の状況 ・目標の達成状況 ・自己診断、自己分析について ・改善方策)</p> <p>【まなび・知】 ○学習形態の工夫を行い、自分の考えをもち、表現する活動を取り入れている。 ○「予習→学習(教えて 考えさせて)→復習」を意識した授業づくりを今後も行っていく必要がある。 ○「めあての確認」と「振り返り」を学習過程に取り入れ、中学校と連携していく。 ○「やまぐちっ子学習プリント」を活用して基礎・基本の定着、活用力の育成を目指して取り組んでいる。チャレンジタイム(週4回)や復習・自主学習で「やまぐちっ子学習プリント」に取り組ませている。 ○家庭と連携し、提出物の徹底を図るとよい。 ○図書館担当職員と連携した取組が効果的であった。 ○地域素材を活かした学習「伊佐学」を継続して行っている。伊佐学の内容などを見直し、進めていくことが大切である。</p>	3.6
<p>【こころ・徳】 ○あいさつを年間目標に掲げたことで、児童の意識が高まった。保護者は年間2回、全員が地域でフレキシブルにあいさつ運動を実践し、家庭でのあいさつの意識も高まってきた。 ○全校縦割り班による、掃除や友遊タイム、花壇の運営を行うことで異年齢集団でのふれあいが見られた。 ○学年活動を通じた社会性を高めるキャリア教育の実践を行っていく。各学年での特徴ある伊佐学のテーマに即した地域再発見の学びを考える。 ○保護者に対して、キャリア教育に関する情報提供を行う必要がある。 ○週1回の学級メンテナンス調査をしている。児童理解の会で全職員が情報を共有するが、紙面に表れないことも見取る姿勢が大事である。 ○児童に自分の言動を意識させる声かけを行うことが大切である。 ○保護者に学校が行っている生徒指導をもっと理解してもらう。 ○道徳的価値を高めさせるのに効果的な指導資料の作成し、蓄積していく。道徳指導時間のあり方の研究と地域人材の活用方法を考える。</p>	3.6
<p>【からだ・体】 ○新しく「めざましスポーツ」を取り入れ、水泳や陸上運動の基本の動きを指導した。また、長縄・ダンス・外遊びの紹介などを行い、運動の日常化を図っている。 ○運動の日常化は家庭でも取り組み、学校との両輪で効果が上げられると良い。 ○週2回のチャレンジ走(3分間走)は、給食とリンクすることで意欲が高まった。 ○昨年度課題のあった柔軟性・握力について、体育の前の補強運動や普段の生活での意識づけにより改善が見られた。 ○今年度の新体カテスト結果では、50m走とソフトボール投げに課題が見られたので、ボール運動を取り入れるなどしていきたい。 ○給食時間の指導については、栄養教諭も加わり、給食委員会を活用して児童から児童への指導も行った。 ○家庭や児童に、朝食にみそ汁を加える意識が浸透してきたと感じている。 ○家庭で以前よりよく野菜を食べるようになった。 ○学校ボランティア(食生活改善推進員・伊佐ふれあい朝市)と連携した活動を継続していく。 ○休日や夏休み等家庭で食事作りを実践してほしい。 ○保育園保護者、園児に対し生活習慣の見直し等伊佐小学校での取り組みを紹介することができた。</p>	3.9
7 次年度への改善策	
<p>〈重点目標の焦点化と具体的手立て〉 教育ビジョンにおける3部会の重点目標を小・中学校が統一し、9年間の見通しをもった目標として分かりやすく提示する。 それを受けて、小・中学校別にそれぞれの具体的な取組を焦点化することによって実践につなげていく。</p> <p>(1)【まなび・知】確かな学力の定着 → 学びが学校で高まり、家庭で深まり、地域で広がる取組の推進(小中共通へ) 焦点化:学習意欲につながる授業の工夫と改善 ・児童が積極的に考えようとする発問や課題の工夫 ・家庭学習における自主学習ノート等を活用した予習・復習の習慣を定着 ・図書室の積極的な活用による読書活動の充実 ・地域人材(学習支援ボランティア)や地域教材(自然・施設等)の有効活用促進</p> <p>(2)【こころ・徳】豊かな人間関係の醸成 → 人や物との関わりを通して、心を育てる道徳教育の推進(小中共通へ) 焦点化:自己有用感・課題達成感につながる体験活動の実践 ・集会委員を中心とした「子どもあいさつ運動」の実践 ・異年齢集団活動とキャリア教育の実践 ・教育相談のあり方と実践の工夫 ・道徳指導時間の確保と内容の充実</p> <p>(3)【からだ・体】健康な生活習慣の向上 → 元気な体をつくる食育・体育の推進と生活習慣の改善(小中共通へ) 焦点化:自分を大切にすることにつながる生活習慣の改善と充実 ・運動の日常化への取組 ・学校ボランティアと連携した活動の推進 ・中学校と連携した「朝食にみそ汁を加える」実践 ・生活習慣アンケートの定期的な実施と有効活用</p>	